

平成27年度 博学連携事業

～高校生のための博物館の日～ 自然科学のセンス・オブ・ワンダー

開催日：平成27年8月11日（火）
 開催場所：大阪市立自然史博物館
 受講者：53名

高校生を対象に若手研究者との交流を通して、自然科学の面白さを発見し、研究や理科系進学についてのイメージを広げてもらうことを目的とし実施しました。



博学共催シンポジウム「大阪の縄文時代をさぐる—森の宮縄文人が語る環境と暮らし」

開催日：平成27年10月31日（土）
 開催場所：大阪歴史博物館
 受講者：164名

森の宮遺跡と上町台地の縄文集落	大阪歴史博物館 松尾 信裕
森の宮の人々と狩猟活動	医学研究科 安部 みき子
縄文人のエコロジーとエコノミー	滋賀県文化財保護協会 瀬口 眞司
パネルディスカッション	文学研究科 岸本 直文 大阪府立狭山池博物館 大野 薫 大阪文化財研究所 趙 哲済 大阪市立自然史博物館 石田 惣 大阪歴史博物館 松尾 信裕 医学研究科 安部 みき子 滋賀県文化財保護協会 瀬口 眞司

博学連携講座『幕末の摂海防備を台場跡』

開催日：平成27年11月9日～12月7日 全4回
 開催場所：大阪市立大学文化交流センター（大阪駅前第2ビル 6階）
 のべ受講者：250名

大阪湾岸に台場あり	文学研究科 准教授 岸本 直文
大坂の台場・陣屋	大阪歴史博物館 学芸員 八木 滋
明石海峡から西摂の台場と砲台	神戸市教育委員会 学芸員 松林 宏典
堺と紀淡海峡の台場、淀川べりの楠葉・梶原台場	高槻市しろあと歴史館 学芸員 中西 裕樹

ミュージアム連続講座 2015「海からの贈り物」

開催日：平成27年11月10日、19日、26日 全3回（6講座）

開催場所：大阪市立総合生涯学習センター 第1研修室

受講者：121名

高麗青磁研究と韓国水中考古学	大阪市立東洋陶磁美術館 学芸員 鄭 銀珍
沈没船保存の最前線	大阪文化財研究所 学芸員 伊藤 幸司
朝鮮通信使たちの水上パレード	大阪歴史博物館 学芸員 大澤 研一
海を渡って旅をする蝶・アサギマダラの移動と生物の交流	大阪市自然史博物館 学芸員 金沢 至
海を渡った日本の蒔絵	大阪市立美術館 学芸員 土井 久美子
中世日本海の港町	文学研究科 教授 仁木 宏

大阪市立大学国際学術シンポジウム「文化接触のコンテクストとコンフリクト」

開催日：平成27年12月4日（金）

開催場所：大阪歴史博物館

受講者：51名

都市大阪を支えた西日本の自然 —需要地としての都市に直結していた農山村の里山像—	大阪市立自然史博物館 主任学芸員 佐久間 大輔
--	----------------------------

シンポジウム「難波宮と大化改新Ⅲ」

開催日：平成28年2月20日（土）

開催場所：大阪市立大学杉本キャンパス

受講者：259名

平成26年2月より実施している発掘60周年の学術シンポジウム「難波宮と大化改新」シリーズの締めくくりとして、中国・韓国からも講師を招聘しての開催となりました。



大化改新と難波宮 —大化改新研究の現段階—	大阪歴史博物館 館長 大阪市立大学 名誉教授 栄原 永遠男
魏晋南北朝時代における中国里坊制都城の成立・発展・成熟	中国社会科学院考古学研究所 漢唐研究室 主任 主 岩石
韓国古代無城郭形都城の拡大とその過程 —新羅を中心に—	韓国水原大学校史学科 教授 梁 正錫
東南アジアの王宮と軸線プラン	大阪文化財研究所 学芸員 積山 洋
難波宮近年の発掘成果から考える大化改新	大阪文化財研究所 研究主幹 高橋 工

食器からみた難波宮と大化改新	大阪文化財研究所 学芸員 市川 創
前期難波宮への中国宮城の影響について	大阪歴史博物館 学芸員 村元 健一
大化改新と宮殿建築の画期	大阪歴史博物館 学芸員 李 陽浩
7世紀史における難波宮・大化改新	文学研究科 准教授 岸本 直文
改新論の課題と展望	文学研究科 准教授 磐下 徹
パネルディスカッション	
